神戸市立長坂小学校　学校評価報告書

校園長名　福本　則樹　　記入者名 福本　則樹

学校づくりの目標	人間性豊かな児童を育成する学校

	内容	重点的な取組み	評点（４段階）	特記事項（学校自己評価）	関係者評価（学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等）	学校自己評価、関係者評価を踏まえた次年度の重点的な取組みの案
育てたい子供の姿	人間性豊かな児童の育成					
	あきらめずにチャレンジする子	○「話す・聞く」力の育成を大切にした全員が参加する授業づくり ○委員会・係活動での自主活動の継続	4	○「話す聞く力＋話し合う」について研修を進めたが、他校での取り組みなども参考にしながらさらに進めていく。	○学校の課題を明確に出してもらい、分かりやすい。保護者アンケートでも授業の様子についてもっと尋ねてもよいのでは。	※児童が主体的に学ぶ授業改善の推進 ※ねばり強い取組の奨励と自己有用感を味わう様々な活動の推進
	「あいさつ」「コミュニケーション」できる子	○「あいさつの木」活動で代表児童によるあいさつ運動の呼びかけ ○学級・学年の人間関係づくり	3	○あいさつ運動が教師主導になっているので、委員会発信で６年生を中心に自分たちの問題として盛り上げていく。	○あいさつができている子とあいさつが全くできない子の差が激しい。 ○自然と「ありがとう」と言える子もいる。	※高学年を中心にあいさつ推進の自発的な取組 ※できていない児童に対する個別の声かけ
	家庭・地域を大切にする子	○家庭での自己の役割について学習 ○地域見守り隊との交流活動 ○地域行事の紹介・参加呼びかけ	2	○家庭・地域との連携については、連携呼びかけなど地道な取り組みを続けていく。	○子供たちは愛情に飢えているのではないか。 ○三者が情報共有できる場がほしい。保護者が学校を支える仕組みづくりが必要。	※協力体制の強化に向けた家庭への啓発 ※協働活動を進める地域との体制づくり
全市的に推進すべきこと	①いじめ防止対策に関する取組み	○毎週の全職員での情報交換 ○初期対応・複数教師での対応・双方の保護者連絡など対応方針の共有	4	○担任だけの問題とせず、学年・学校全体で共有して、全職員で全児童を見守って指導・対応していく。	○学校ではいじめ問題にどのように対応しているのか説明してもらってよく分かった。 ○教科担任制は多面的に関われるのでよい。	※道徳教育や仲間づくりのさらなる推進 ※教師の対応スキル向上を目指した研修の実施
	②不登校支援の取組み	○こまめな家庭連絡の継続 ○別室指導やオンラインでの指導など子に応じた柔軟な指導	3	○担任だけの問題とせず、学年・学校全体で共有して、全職員で対応していく。	○不登校と学習の遅れの関係が気になる。中学校ではより深刻だと感じる。	※担任だけでなく全職員での対応 ※サポートルームの開設に向けた準備
	③教職員の業務改善	○授業時間数適正化に向けた学校行事や週時程の見直し ○会議や職員連絡の効率化	4	○適正な授業時間数の確保を前提に、教育課程や授業時間数の見直しを進める。	○教室のプロジェクターがあまりに暗い。一番時間を割いている授業づくりに影響するのではないか。	※学校行事の実施方法のさらなる見直し ※ＩＣＴを効果的に活用した業務の効率化
	④「すぐ-る」の活用、ホームページにおける情報発信	○紙配付からすぐーる配信への段階的な切り替え ○各学年からの日常的なＨＰ更新	3	○個別懇談会の日程希望調査をすぐーるで行うことを続けていく。 ○欠席連絡の時間順守をお願いする。	○細かく情報発信されていると感じる。 ○紙がデジタルになっただけではダメで、情報をいかにシェアするかが大切になる。	※すぐーる配信する配布プリントをさらに増加 ※すぐーるの欠席連絡の時間を再度広報 ※ＨＰの存在を保護者へ広く周知
	⑤学校生活のルールや決まり（校則など）について	○各種委員会での校内ルールの見直しと全員での共通理解 ○「よくわかる長坂小」の配付・掲示	3	○体育の服装や持ち物など、今の時代に合ったものになっているか一度見直していき、子どもたちと確認する。	○「よくわかる長坂小」で細部にわたって決められている。必要に応じて見直してほしい。 ○「のびのび」でも学校に合わせて指導する。	※「よくわかる長坂小」の見直しと、児童や保護者への変更点の周知

【評点】４：十分達成できた　３：おおむね達成できた　２：どちらかと言えば課題がある　１：課題がある